

2020年度(令和2年度)使用
福山市立中学校用教科用図書採択結果

種 目	発行者名	教科書名	採 択 理 由
国語	光村図書出版	国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭に「学習の見通しをもとう」として、教材とつきたい言葉の力の一覧を領域ごとに示している。単元の扉に単元名と単元の目標を示している。教材の冒頭頁と終わりに学習の目標を示している。 ○ 第3学年の批評文を書く単元では、課題設定から交流まで6つの手順を示し、完成後に文章を読み合い、考えを深める活動を設定している。批評文の完成例1点、学習の振り返りを2点示している。 ○ 第2・第3学年は、「本編」「文法」「漢字に親しもう」「学習を広げる」の4部構成、第1学年は、「言葉に出会うために」を加えた5部構成である。年間総単元数は全学年7単元である。古典教材は、第5単元に配列している。 ○ 巻末資料「学習を広げる」では、「文学的（説明的）な文章を読むために」を示している。 ○ 各学年とも本編に「読書生活を豊かに」「読書に親しむ」として、2作品及び読書活動に係る教材、単元末の読書案内「本の世界を広げよう」を掲載している。書籍紹介数は、3学年合計で243冊である。
書写	光村図書出版	中学書写 一・二・三年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「基礎編」として、「書くときの姿勢」「用具の扱い方」「筆記具の持ち方」とともに、「点画の種類と筆使い」「字形の整え方」「読みやすく書くために」などを写真やイラストで示している。 ○ コラムとして、「文字の歴史を探る」「季節のしおり」「デザインと文字」「手書きの力」「筆・紙・墨・硯ができるまで」などを全11頁で示している。 ○ 発展的な学習の資料として、第3学年で魏、東晋、唐、北宋、清の書家、平安時代の日本の書家を扱っている。 ○ 「学習の窓」で、「行書の特徴」を7つに整理し、横画を比較できるように見開きで示すとともに、薄墨と朱の二色で、筆使いを示している。行書の特徴を丸で囲み、赤字で強調して、ポイントを解説するとともに、学習する関連頁を示している。 ○ 日常生活に関連する内容として、巻末の資料に「日常の書式」を掲載し、「手紙の書き方」「封筒の書き方」「はがきの書き方」「送り状の書き方」「願書の書き方」「のし袋の書き方」「原稿用紙の使い方」を示している。

<p>社会 地理的 分野</p>	<p>東京書籍</p>	<p>新編 社会 新しい 地理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本の領域の特色をしてみよう」において、北方領土の地図、竹島、尖閣諸島の写真を掲載して、本文14行にわたり日本固有の領土であるとともに、尖閣諸島については国際社会からも日本の領土として認められていると記述している。また、「地理にアクセス 日本列島を構成する島々ー竹島・北方領土・尖閣諸島ー」という見開き1頁のコーナーを設け、地図、地形図、地勢図、写真を掲載して、それぞれの位置・特徴・概要などを解説している。 ○ 九州地方の単元の導入では、1頁に特徴的な写真、グラフを提示している。次頁以降に、地図、写真、グラフを記載し、「ためしてみよう」という学習の促しや、キャラクターの吹き出しによる「九州地方の追究テーマ」を示している。 ○ 日本のさまざまな地域の単元に、「震災と防災・減災への取り組み」など9教材を、1～2頁で掲載している。それぞれ、「トライ」という吹き出しを設け、「～について話し合いましょう」など学習への促しを提示している。 ○ 本文の補足や関連事項を説明する「地理にアクセス」「ティープレイク」や基礎的・基本的な技能を身に付ける「地理スキル・アップ」など、さまざまなコラムを掲載している。本文などの重要語句に、関連頁を記載している。他の分野の学習と関連のある内容に、「分野関連マーク」を付けている。 ○ 「世界中が全て同じ時刻で生活すると、どのような不都合が生じるか、理由とともに説明しましょう」などの問いかけをしている。
<p>社会 歴史的 分野</p>	<p>東京書籍</p>	<p>新編 社会 新しい 歴史</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際関係や文化交流に関するコラムなどは、古代まで1点、中世2点、近世3点、近代8点、現代7点の合計21点を扱っている。 ○ 現代に関する単元の導入において、「新幹線と高速道路」の写真を示すとともに、歴史的事象に関連したイラストを配置した年表を掲載している。続く見開きで、「戦後改革」「国際連合」「東京オリンピック」など、近代化の写真を時代順に並べるとともに、キャラクターの吹き出しによる問いかけや説明を掲載している。 ○ 各大項目に設定した「深めよう」で、本文の学習と関連した読み物を設けている。また、頁末の「トライ」では、「調べましょう」「整理してみよう」など、読み物に関する学習への促しを示している。 ○ 見開きごとに、写真やグラフなどの資料を掲載し、資料に対する疑問を吹き出しで示している。また、「学習課題」の提示と学習内容に対する「確認」のコーナーを設けている。 ○ 近代の振り返りでは、江戸時代から明治時代への変化について、「政治の仕組み」「国際関係」「産業や経済」「生活や文化」など、多面的・多角的な視点で、歴史新聞にまとめる手立てを例示している。

<p>社会 公民的 分野</p>	<p>東京書籍</p>	<p>新編 社会 新しい 公民</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校でのトラブル事例を漫画で紹介し、解決のための話し合いの様子をイラストや吹き出しで示している。また、マンションの駐輪場での問題をイラスト、吹き出し、写真で示し、「話し合い」「決まりの作成」など、解決の手順をイラストで掲載している。 ○ 「私たちの政治参加」のコーナーで、福山市立鞆中学校（当時）の取組を例に、地域活動について「問題把握」「問題分析」「意思決定」「提案・参加」という手順を示し、自分たちにできる政治参加を紹介している。 ○ 総頁数は253頁で、構成としては、私たちと現代社会28頁、私たちと経済50頁、私たちと政治84頁、私たちと国際社会の諸問題46頁、その他45頁となっている。 ○ 「私たちと政治」における資料の種類と掲載数は、絵画81点、写真100点、地図4点、表・グラフ60点、新聞12点、年表3点を掲載している。 ○ 「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」のコーナーで、「立地」「利用者の年齢別割合」などの資料に基づいて、どこに出店するのかを考え、話し合う活動を促している。
<p>地図</p>	<p>帝国書院</p>	<p>中学校社会科 地図</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「環境・防災」に関する資料については、「森林の変化」「震災からの復興のようす」など13点を掲載している。また、日本と世界の結び付きに関する資料については、「おもな国の日本への輸出」「日本からの移民」など11点を掲載している。 ○ 地図活用のスキルが身につくよう、また、地図への着眼点が理解できるように、地図を見る上での着眼点を示した「地図を見る目」、地図を読み取る学習活動や言語活動を促す「やってみよう」を記載している。 ○ 本体サイズは、A B判（タテB 5判、ヨコがA 4判サイズ）としている。配列及び頁数は、使い方・資料図15頁、世界の諸地域56頁、日本の諸地域64頁、日本の資料図17頁、統計9頁、さくいん9頁、巻頭・巻末6頁で、総頁数176頁の構成となっている。また、世界、日本、統計、さくいんなど、項目ごとに色分けをしている。 ○ 縮尺については、世界の広域地図・大陸地図を、3500万分の1～6000万分の1、日本列島を400万分の1、日本の各地方地図を100万分の1で示している。日本の地域の拡大図については、50万分の1で示している。 ○ オーストラリア州を例に、「この地図帳の使い方」を巻頭に記載している。ページのタイトルと縮尺、隣接ページ、さくいん記号、経線、緯線、学習課題等についての解説を記載している。

<p>数学</p>	<p>学校図書</p>	<p>中学校数学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 節末に「確かめよう」を設定し、解けない問題について、本文に戻れるように関連ページを明記している。 ○ 第1学年「空間図形」正多面体の特徴を考える内容では、正多面体が5種類しかないことに着目させながら、表にまとめ考察させている。 ○ 全学年1冊構成である。第1学年巻末資料「さらなる数学へ」では、レポートの作り方等を扱った「表現する力を身につけよう」や、日常や教科等とのつながりを扱った「課題学習・自由研究」、補充学習を扱った「小学校の計算」「1年の復習」を設けている。 ○ 第3学年「関数 $y=ax^2$」では、斜面でボールを転がしたときの1秒ごとのボールの位置等のイラスト18枚、投げ上げたボール等の写真12枚を掲載している。 ○ 第1学年の「資料の活用」では、ルーラーキャッチの記録を基に、総度数の異なる2つの資料の分布を比較させ、似ているところや異なるところを説明させる学習を位置付けている。
<p>理科</p>	<p>新興出版社 啓林館</p>	<p>未来へひろがるサイエンス (マイノート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全確保のために、観察・実験をするうえでの注意事項を、9種類のマークで示し、特に注意を要する内容は赤字で具体的に記述している。 ○ 第1学年単元「身のまわりの物質」において、「探究のしかた」として探究の8つの学習過程を示している。 ○ 第1～3学年とも、本編とマイノートの2部構成である。第2学年の単元は、「生物」「地学」「化学」「物理」の配列になっている。 ○ 単元の冒頭に、走行中には水しか排出しない燃料電池自動車など、学習内容と関連する写真を掲載している。第3学年の巻末の内容は「地域・環境資料集 サイエンストラベラー」「サイエンス資料」など全33ページとなっている。 ○ 各学年の巻末に「きみも科学者」として、レポートのまとめ方を示すとともに、各学年で事例「わたしのレポート」を掲載している。

<p>音楽 一般</p>	<p>教育芸術社</p>	<p>中学生の音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習目標は、見開き左ページ上に示し、教材名の下に学習活動文を「～しましょう。」と記している。〔共通事項〕に示されている音楽を形づくっている要素を「学習の窓口」で例示し、音楽学習 MAP 及び該当ページの学習目標の横に掲載している。 ○ 第2・3学年上 創作「和音の音を使って旋律をつくらう」の学習では、Warming up, 1, 2, 3, Challenge!!の順で、学習過程を示している。キャラクターの吹き出しで、学習活動のヒントを示している。 ○ 歌唱教材は17～23曲、鑑賞教材は7～10曲、創作教材は2教材配列している。各学年とも目次で、歌唱教材、創作、鑑賞教材の配列を示し、音楽学習 MAP で、歌唱、創作、鑑賞のまとまりと関連を示している。 ○ 目次で、歌唱共通教材のマーク、学習の窓口で〔共通事項〕のマークを示すとともに、音楽学習 MAP、該当ページに示している。歌唱共通教材は、曲の情景を表した写真、作詞者、作曲者の写真を掲載している。 ○ 第2・3学年下 鑑賞『組曲「展覧会の絵」から』の学習では、Step 1, Step 2, Step 3の順で学習過程を示している。Step 1で「ポイント」として鑑賞の視点を示し、曲の特徴や感じ取ったことなどを記述する欄を設け、Step 2で発表し合う活動、Step 3で再度鑑賞する活動を設定している。
<p>音楽 器楽合奏</p>	<p>教育芸術社</p>	<p>中学生の器楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 和楽器については、箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八の順に示し、各楽器の構造や種類、姿勢と構え方、奏法等を写真や図で示すとともに、「和楽器こぼれ話」「音を聴いて確かめよう」のコーナーを設けている。 ○ 箏の学習では、「My Melody」として平調子に調弦して旋律をつくる活動を設定している。キャラクターの吹き出しで、旋律づくりのヒントを示し、「Challenge!!」の「さくらさくら」の前奏をつくる活動の中で基礎的な奏法の活用を促している。 ○ アルトリコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器、アンサンブルセミナー、アンサンブル、名曲スケッチの順で構成している。 ○ プロの演奏家が演奏している写真、リコーダー、ギター、箏、三味線、長胴太鼓、締太鼓、篠笛、尺八、打楽器の楽器や構え方、奏法に関する写真を掲載している。リコーダーの学習では、3つのイラストを用いて、タンギングの仕方を示している。 ○ 「聖者の行進」の学習では、グループアンサンブルの中で、曲想を感じ取って、表現の仕方を工夫する活動を設定している。Step 1で演奏の仕方を考え、Step 2では考えたことをもとに話し合う活動を設定している。

美術	光村図書出版	美術	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各題材名の横に「目標」を「関心・意欲・態度」「発想や構想」「創造的な技能」「鑑賞」の4観点で示している。それぞれの目標の文頭には学習後に達成状況を振り返るチェック欄を設けている。「目標」の下に〔共通事項〕の視点を意識させる問いかけを掲載している。 ○ 表現への興味・関心を高める工夫として、制作のポイントを写真やスケッチとともに示したり、作品とともに「作者の言葉」を設け、制作意図や表現の工夫について掲載したりしている。鑑賞への興味・関心を高める工夫として、鑑賞作品の一部を原寸大で掲載したり、見開きの折り込み4ページの大型図版を用いたりしている。 ○ 題材を「はじめに」「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「学習を支える資料」の分野等に分けて配列している。題材数は第1学年27,第2・3学年40であり、題材ごとに2ページ,または4ページで示している。 ○ 巻頭の鑑賞作品や資料ページ,鑑賞題材である「特別展示室」において,見開きの折り込み4ページ等の大型図版で鑑賞作品を掲載している。美術作品と併せて詩を掲載している。巻末に「色と光の特徴を知ろう」「形と材料の特徴を知ろう」を設け,形・色・材料・光に関する資料を折り込みページで掲載している。 ○ 発想を広げたり構想を練ったりする際のヒントを示すマークを使って,視点を示している。第2・3学年,デザインの学習では,「みんなの工夫」でポスター制作のプロセスを会話,写真,アイデアスケッチとともに示している。
保健体育	学研教育みらい	新・中学保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知識及び技能の定着を図るため,キーワードとなる語句に番号を付し,解説を掲載している。各章末に「章のまとめ」として,「用語の確認10」「基礎の完成」「活用の問題」を設けている。 ○ 実生活と関連付けるために,小単元に「エクササイズ」を設け,教えたり,話し合ったり,調べたりする課題を設定するとともに,「情報サプリ」にミニ知識を掲載している。 ○ 発展的な内容として,発展マークを付し,章末の「探究しようよ」に資料を掲載している。 ○ 各章の初めには,その章の学習内容に関連する仕事についての写真と解説を掲載している。追加して考えたり調べたりするとよいことを示した「プラス」等のマークを用いている。 ○ 第3学年「喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ」では,事例をもとに話し合う活動や,誘われたときの対応を考え,ロールプレイする活動を取り上げている。

<p>技術・家庭 技術分野</p>	<p>東京書籍</p>	<p>新編 新しい 技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伝統と文化に関する内容には、「伝統・文化」マークを付けて、「日本の伝統野菜」「漆塗り」など12事例紹介している。 ○ 小項目ごとに「考えてみよう」「話し合ってみよう」「やってみよう」など、学習のはじめに取り組む簡単な活動例を「目標」の次に示すとともに、見開き右ページの下に、学習に関連する内容をクイズ形式で掲載している。 ○ 第1学年の最初に「ガイダンス的な内容」として、「技術分野のガイダンス」を12ページにわたり掲載している。 ○ 「他教科」「小学校」「安全」など18種類のマークを活用して、本文の内容と関連する学習内容を示している。また、「技術の匠」として、現代社会で活躍する技術者25人の言葉をコラムに取り上げている。 ○ 表現・発表する学習活動として、「D情報に関する技術」において、プレゼンテーションの流れを示し、制作作品の構想、制作、評価、修正、発表を取り上げている。
<p>技術・家庭 家庭分野</p>	<p>東京書籍</p>	<p>新編 新しい 技術・家庭 家庭分野 自立と共生を 目指して</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「和服の文化に触れよう」など、伝統・文化に関する内容をマークを用いて示すとともに、写真、イラストで16事例紹介している。 ○ 「課題発見」「計画」「実践」「見直し」「改善」「次課題の挑戦」の6段階で学習の進め方を示し、実践例を6例掲載している。 ○ 家庭分野のガイダンス20頁、内容は家族50頁、食76頁、衣住74頁、消費24頁、選択事項で6頁扱う。配列は、食・衣住・家族・消費の順である。 ○ 全部で14種類のマークを使用している。学習を深めるために「資料」のマークを付し、「ユネスコの無形文化遺産に登録された『和食』」などを掲載している。 ○ 「生活の課題と実践」の中で、まとめと発表の仕方の例を紹介するとともに、「まとめ方や伝え方のポイント」や「まとめの読み方や聞き方のポイント」を示している。
<p>英語</p>	<p>東京書籍</p>	<p>NEW HORIZON English Course</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文法事項を「まとめと練習」として、各学年2～7項目に整理し、「確かめよう」で文の構造をまとめた後、「やってみよう」で練習問題を設定している。 ○ 第2学年 Presentation「町紹介」では、Hop でモデル文を理解し、Step で紹介したい話題決定・内容整理をして、Jump で原稿を作成し、発表する構成にしている。その後、Challenge で世界の町の情報を読む活動を設定している。 ○ 第1学年で外国語活動との接続を図るため、巻頭に「Hi, English!」を設定し、あいさつ、身の回りの英語、外国語活動で学習した語彙・表現を取り上げている。「Unit0」で、アルファベットを取り上げている。 ○ 「Presentation」における「ふり返ろう」に、「書く・話す」「読む」「聞く」の技能別に学習到達目標を設定し、達成していれば、チェックを入れる欄を設けている。 ○ 4技能を統合的に活用する言語活動を「Presentation」に設定している。テーマは、自己紹介、将来の夢、日本文化紹介等である。